

山形敏一先生追悼

石井 厚

本会名誉会員、東北大学名誉教授山形敏一先生には、平成十年九月十四日胃癌のために八十五歳で逝去されました。心から哀悼の意を表します。

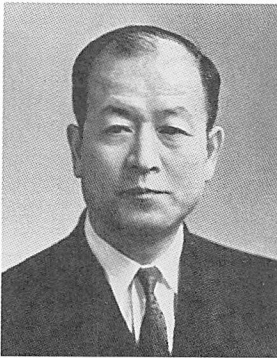
先生は東北大学医学部第三内科教室教授として多くの業績をあげられ、また医学部付属病院長として手腕を発揮され、さらには日本学術会議第七部長として医の倫理確立のために努力を傾注されました。

日本医史学会においては、長い間理事をつとめられ、名誉会員に推戴されました。

先生の医学史に対する興味は、恐らく先生が若い頃可愛がられた初代第三内科教授山川章太郎の影響があったのではなからうか。

山川教授は小関三英の研究で有名であるが、山形教授も仙台藩における蘭方内科の嚆矢となるべきであった三英について幾つかの論文を発表しておられる。

山形教授の医史学の分野における興味は、主として仙台藩政時代の蘭方医の業績紹介にあつたと思われるが、なかでも大槻玄沢、建部清庵、佐々木中沢、湊長安、中条帯刀などの業績をつぶさに調査して発表しておられる。当然なが



故山形敏一先生

ら、これらの研究に当って新資料の発掘に多大の努力を傾けておられ、その模様は論文の中に随所にちりばめられている。

先生は医学部学生当時からアララギに入会され、良陵短歌会の有力なメンバーとして活躍され、幾つかの歌集も出版しておられる。

屍体臭のこもれる解剖室を出でて

芝生に寝転び秋空に見入る

これは医学生生の悲哀と題して医学部短歌会誌「良陵」に発表された歌であるが、若い医学徒時代の先生を思わせる一首である。

先生はまた二高時代からのボートマンでもあった。昭和九年十二月、二高端艇部員ら十名が松島湾で遭難したが、その中には筆者の縁戚に当たる石井吾朗ら三名の医学部学生が含まれていた。山形先生は端艇部先輩として遭難の当日にも応援にかけつけ、助言や激励をされたと聞く。また石井吾朗追悼録にも心こもる一文を寄せて頂いた。

いま、山形先生への追悼文を認めるに当たって、その奇しき縁を思う。
心から先生のご冥福を祈ります。

(白石今野病院)